

香川県支部

香川県内の企業における環境問題への取り組みに関する調査研究

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減が、各国の重要な政策課題となっていることに示されるよう、地球環境を中心とする環境問題は以前にも増して全世界的に大きな注目を集めている。こうした環境問題への関心の高まりのなか、社会貢献の一環としての環境保全活動を積極化する企業が増えると同時に、「環境」を新たなビジネスチャンスととらえ、環境ビジネスに乗り出す企業も増加している。さらに、企業の活動領域の拡大や多様化にともない、企業の社会的責任に対する社会の関心はますます高まっている。

こうした現状を踏まえ本調査研究は、香川県内の企業における環境問題への取り組みの実態、課題を明らかにするとともに、今後の方向性等について検討することとした。

第1章 環境問題と現状の取り組み

1. 地球環境問題
2. 環境対策の変遷と法規
3. 企業の環境問題への主な取り組み

第2章 調査の概要

第3章 インタビュー調査の結果

第4章 総括

1. インタビュー調査から考察できる環境経営の概観
2. 環境経営への取り組みフェーズとその効果
3. 環境対応経営を推進するために
4. 環境経営の「あるべき姿」

今回の調査からも推察できるが、香川県において環境問題に対応している多くの企業は、社会的責任を果たすことを動機付けとしている場合が多い。逆に、環境問題をシーズに、新製品や新サービス、新業態や新規事業進出を行い、その事業が他社への差別化要因にまでなっている例は少ないように感じた。

社会的責任を果たすことは、とても素晴らしいことである。しかし、この場合「他社がやっているから当社もやる」という段階にとどまる可能性が高い。「サステナビリティ（持続可能性）」は、組織面でも技術面でもイノベーションの源となり、これによって売上げや利益がもたらされることが明確になっている。

ぜひ、香川県の中小企業においても環境問題を自社のマーケティング戦略に反映させ、ブランド力の向上とマーケットシェアの拡大を実現してほしい。

それが、「あるべき環境経営」だと考える。